

岐阜県福祉サービス第三者評価事業評価結果表

平成 26 年 12 月 19 日改正
(平成 27 年 1 月 1 日適用)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 岐阜後見センター

②施設・事業所情報

名称：岐阜県立飛騨寿楽苑		種別：特別養護老人ホーム		
代表者氏名：苑長 今津 尚人		定員（利用人数）： 120 名		
所在地：岐阜県飛騨市古川町是重102				
TEL：0577-73-3804		ホームページ： www.gifu-fukushi.jp/hidajuraku/		
【施設・事業所の概要】				
開設年月日 昭和54年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 岐阜県立福祉事業団				
職員数	常勤職員： 42名	非常勤職員	55名	
専門職員	（専門職の名称）	名		
	施設長	1名		
	事務員	4名		
	生活指導員	3名		
	介護職員	26名	介護職員	40名
	看護師	4名	看護師	2名
	管理栄養士	1名		
	機能訓練指導員	1名	機能訓練指導員	1名
	介護支援専門員	2名	業務員等	12名
施設・設備の概要	（居室数）	（設備等）		
	全室個室 120室 (志之町・美濃町 全室洗面台付トイレは2部屋に1か所) 三之町 全室洗面台付全室トイレ)	食堂(ユニットに2～3か所) 浴室(ユニットに個人浴槽1か所 特殊浴槽は各階に設置) 医務室1		

③理念・基本方針（※転載）

<理念>

「おひとり、お一人の思いを大切に受け止めて」

<基本方針>

- ①介護に理念である「安全性、継続性、自己決定、選択の自由、能力に活用」を基本に、利用者の権利を守り、一人ひとりが生きがいを持って生活できるよう支援します。
- ②多様な在宅福祉ニーズに対処するため、併設する在宅部門はもとより、地域の関係施設・

機関と連携し、地域における高齢者福祉サービスの中核拠点を目指します。
③地域との協調を図り、地域に根ざし、地域に開かれた施設を目指します。

④施設・事業所の特徴的な取組（※評価機関において記入）

- ・建物は伝統的な日本の建築様式に現代的な要素を取り入れ、全体として地域の街並みになじませた開放的な造りである。施設内はさながら街のようであり、そこかしこで入居者の方々が思い思いに過ごしている。
- ・飛騨木材を使用した温かみのある空間が演出され、照明には和紙を使ったシェードがかかり、懐かしい明りが灯されている。また、昔からの民芸品、調度品が並べられ、利用者が育った時代を回想できる等、落ち着いた生活環境を提供している。
- ・高山市にある岐阜県生活技術研修所と協力し、褥瘡防止に力を入れている。毎月、定期的に利用者それぞれに座布団や枕の当て方、圧のかかり具合をチェックする等して褥瘡ゼロを目指している。
- ・飛騨市古川町における「ふるさと福祉村」の事務局として自治会や関係機関と連携し、住民全体の自立と連帯のコミュニティを目指して、地域福祉のネットワーク作りや交流事業等を行っている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 28 年 10 月 1 日（契約日） ～ 平成 年 月 日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	2 回（平成 23 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

<人材育成に積極的に取り組んでいる。>

キャリアパス制度を導入し、新人から管理層までの育成のモデルを示し、テーマ別研修、職位別研修、テーマ別研修、職種別研修、外部研修等の様々な研修を計画的に実施し、職員の質の向上を図っている。とりわけ新人職員にはチューター制度を採用し、OJTを基本としたマンツーマン指導を実施している。

<ユニットの自治ができている。>

それぞれのユニットで職員が独自に工夫を凝らして、ユニット空間作りをしたり、独自のケアを推進している。ユニットにはそれぞれ町名があり、各ユニットは「町内」であり、全室個室であり、各居室は利用者の「住まい」と考えたケアが展開されている。

<利用者を大切にされたケアを実践している。>

飛騨地方の風土を感じさせる落ち着いた空間作りを演出し、飛騨の方言を用いた言葉かけ等、穏やかで安心感のある姿勢で利用者に接する等、利用者を大切にされたケアに取り組んでいる。

<地域の拠点施設として認知症ケアを推進している。>

認知症ケアに関する外部研修に毎年、何人もの職員が積極的に参加しており、認知症高齢者への適切な支援を行っている。毎年公開講座やシンポジウムを開催する等して、地域の高齢者施設のリーダー的な存在として地域の啓発活動を展開している。また、今年度は認知症介護指導者による「オレンジサロン」を実施した。

<職員のケアに対するモチベーションが高い>

「より良い介護を、より質の高い支援を」という職員のモチベーションの高さが伝わってくる。褥瘡を作らないという取り組みの他、接遇研修用に職員によって作成された「ココロ本」、自主的な介護技術の勉強会「どすこい介護技術勉強会」や看取りにおけるケアの水準を維持するために作成された「看取りのハンドブック」等、様々な取り組みを通じて、ケアを実践していく中で必要な倫理・価値、知識、技術について学びを深めている。

◇改善を求められる点

<更なる業務の簡素化に期待したい >

ISO9001を取得した経緯があり、業務マニュアルや事務の標準化ができています。また、周辺業務のアウトソーシングの推進等業務の簡素化に努めている。しかし、事務作業において、記録物等作成書類が多く、職員への負担につながるものと考えています。今後、介護ICTの活用等による更なる事務の軽減に向けた取り組みに期待したい。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

飛騨寿楽苑の理念である「おひとり、お一人の思いを大切に受け止めて」を、職員全員が意識し、利用者の暮らしの継続、個別ケアを大切に今後も高齢者福祉サービスに取り組んでいきたいと思っております。

B評価の項目に関しては、改善点・改善方法等コメントを頂きましたので、今後の参考にさせて頂きサービスの質を上げていきたいと思っております。

職員が飛騨寿楽苑のサービス内容を振り返る事が出来た事も有意義な事であり、この評価結果を職員に周知し、職員の働く意欲の向上に繋がればと思っております。

⑧第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。